

過去の広報やながわは市公式サイトで読めます

創刊号から最新の400号まで全てのバックナンバーは市公式サイトで確認できます。



218号(平成26年4月) 全国広報コンクール入選
 177号(平成24年8月) 九州北部豪雨を特集
 84号(平成20年9月) ナイアガラがギネス記録認定
 62号(平成19年10月) 有明小創立50周年記念式典
 16号(平成17年11月) 17歳の井口卓人さんを紹介
 創刊号(平成17年4月) 創刊号の表紙は合併記念リレー



277号(平成28年10月) 坂井聖人選手銀メダルを祝福
 268号(平成28年5月) 熊本地震発生 市内で震度5強
 265号(平成28年4月) 琴奨菊優勝水上パレード
 233号(平成26年12月) 「水郷柳河」が国の名勝に指定



市民の皆さんに支えられて17年 創刊400号

平成17年3月の旧1市2町の合併から17年目を迎えた柳川市。合併と共に旧市町の広報紙が1つになって誕生した「広報やながわ」は、今月で400号を迎えました。表紙や紙面のレイアウトが少しずつ変わっていますが、「市民の皆さんに情報を分かりやすく伝えたい」という気持ちは創刊から変わりません。今回は、そんな広報紙の制作過程や今後の展望などを紹介します。

【問】市企画課広報広聴係 ☎77・8425

創刊号の「もちふみデビュー」を飾った宿利さんは高校2年生になっていました

今後も楽しい広報紙を

いつも広報紙を楽しく読んでいます。知っている人が載っていると、家族で盛り上がりませぬ。中学生のときに友人から「1歳の頃の写真が広報紙に載ってたね」と言われたことがあったけど、まさか創刊号だったとは。今は伝習館高校で、勉強とバレーの部活動を頑張っています。私は少し小さく生まれて、これまでに多くの人に支えられてきたので、将来は人を支える助産師になりたいです。今後も広報やながわを楽しみにしています。



宿利 咲生 さん(17歳)



17年後 創刊号より抜粋



400号(令和4年1月) 今回の表紙は市民の笑顔
 376号(令和2年12月) 市民文化会館オープン
 345号(令和元年8月) 宗茂の人形を載せた山笠登場
 331号(平成31年1月) 映画「この道」全国公開
 313号(平成30年4月) 新しくなった浦島橋が開通

5 印刷・製本

パソコンで作成したデータをもとに、いよいよ印刷が始まります。大型の専用印刷機をフル稼働して約2万5000部を4時間ほどで印刷。製本した後は、各行政区ごとに封詰めされます。



6 納品・配布

印刷業者へデータ入稿後、約1週間で市役所に広報紙が納品されます。市役所から各行政区長宅までの配送は、市シルバー人材センターが担当。その後、それぞれの行政区を通して、市内の1軒1軒に配られます。

※写真はイメージです。マスクを着用して作業しています。



行政区を通じて皆さんの自宅へ

3 編集作業

取材した写真や原稿を読む人が見やすく興味を引くように配置して、紙面をレイアウトします。特に写真とタイトルには力を入れて、記事が読み飛ばされないように注意します。



レイアウトやデザインの参考書

過去の広報紙(参考資料)

記者ハンドブック(新聞用字用語集)

添削用の赤ペン

日にちや曜日確認用のカレンダー

4 校正・入稿

文章や名前、数字などに誤りがないか、広報担当だけでなく各担当課でも校正(確認)。校正後、印刷業者へデータを入稿します。



※写真はイメージです。マスクを着用して取材しています。



1 編集会議

企画課内で各課から出てきた原稿を紙面に割り付けます。記事の内容ごとに分類して、その号のページ数を決定。特集記事を組むときは、テーマを設定し、取材先などを協議します。



2 取材

記事に合わせて人物へのインタビューやイベントの取材を実施します。取材内容から伝えたい情報を分かりやすくまとめる他、情報を視覚的、直感的に伝えるために使用する写真を撮影します。

初公開

「広報やながわ」ができてくるまで

「広報やながわ」は写真撮影やインタビューからレイアウト、文字校正といった印刷製本以外の工程は全て職員が担当しています。広報紙を作るとき、特に意識しているのが、読み手に「伝わる情報」にすること。どんなに正しい情報を載せても、読んでもらわなければ、それは「伝わらない情報」です。手に取って読んでもらうためには、写真やタイトル、余白といった紙面を構成する要素を効果的に配置することが大切。雑誌や、先進自治体の広報紙を参考にしながら「読みたい」と思ってもらえるような広報紙にするため、試行錯誤を重ねています。

広報やながわ × SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



広報紙で取り組んでいる SDGs アクション

耳で聞く「声の広報」ぜひ一度お試しください



音訳ボランティア オルゴール

平成17年の創刊号から広報やながわを毎号欠かさず音訳して、「声の広報」として視覚障がいがある人などへ届けている音訳ボランティア「オルゴール」の皆さん。毎号広報紙の原稿ができるころに水の郷に集まって、音訳してCDやカセットテープに録音しています。声だと伝えにくい図や写真には、説明を加えるなど、聴く人に伝わるように20人全員で協力しながら作成。CDはCD再生機やパソコンで聴くことができます。運転や家事などの傍らに、ラジオのように聴くことができるのも「声の広報」ならではの、「声の広報」のCDやカセットテープは、図書館本館と水の郷分室でも貸し出しています。ぜひ、一度お試しください。また、オルゴールでは一緒に活動する会員を募集中です。興味がある人は、内田代表（☎72・6242）まで気軽にご連絡ください。



原稿を見ながら読み上げるメンバーの皆さん。読み間違えないように、各自、家で担当パートを練習している

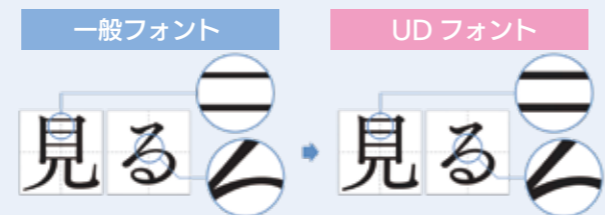
UDフォントで誰もが読みやすい紙面に

文字は多くの情報を私たちに与えてくれます。しかし、その文字が読みにくいと、「読もう」とする気持ちを半減させ、ときには読み間違いによって誤った情報を相手に伝えることになりかねません。そのため、どんな文字を使うかは、広報紙でとても重要な要素です。

そこで、広報やながわでは、UDフォントを採用しています。UDフォントとは、年齢や性別に関係なく、誰もが読みやすく、見やすいデザインが施された書体。他の文字と間違えにくく、すぐに認識できるように間口や線の太さが工夫されています。誰もが読みやすい紙面にするため、フォントの種類にもこだわっているのです。



間口が狭ければ「C」を「O」、「3」を「8」と間違える可能性が。UDフォントは誤認を防ぐために、英数字の間口が広がっている



UDフォントは一般フォントと比べ、横線を約2倍の太さに。目のちらつきを軽減する効果がある



「広報やながわ」が目指すもの



創刊以来、市の取り組みや、市内の出来事を発信し続けている「広報やながわ」。急速にデジタル化が進む現代に、紙媒体の広報紙が「目指すもの」。それは、市民と市民をつなぎ、みんなに愛される広報紙です。

進むデジタル媒体への移行

スマートフォンやパソコンが普及して、多くの人がインターネットから世界中の情報を手に入れることができる現代。情報発信の媒体は、紙からデジタルへと移行が進んでいます。市は、公式サイトをはじめ、SNSやアプリを運用して、観光や子育て、ごみ分別や新型コロナウイルスなどをタイムリーに発信しています。しかし、インターネット上から情報を得るには、受け取る人が自ら情報を探さなければならない。そのため、多くのデジタル媒体の情報は、積極的に情報を知らうとする人にしか、なかなか届きません。

デジタル社会でも輝く広報紙の良さ

1月と5月を除き、毎月1日号と15日号の月2回発行している「広報やながわ」。広報紙は行政区を通じて市内の1軒1軒に配られます。そのため、手に取るだけで、自ら情報を探さずとも、市が進めている取り組みを幅広い世代に伝えることができます。また、手に置いてじっくり読み込めるのも、紙媒体ならではの特徴です。一方、災害発生時などのタイムリーな情報発信はできません。

最近ではデジタル媒体との連携を推進

そこで広報やながわでは、デジタル媒体との連携に取り組んでいます。広報紙の紙面で左のようなQRコードを見かけませんか。スマートフォンで読み込めば、すぐに関連する公式サイトやSNSなどデジタル媒体の情報を確認することができ、とても便利です。スマートフォンを持っていない人は、ぜひ活用してください。



SNS・アプリ

目指すのは市民と市民をつなぐ広報紙

市の主役は市民。広報紙は、その主役を照らす照明係です。スポットライトを当て、市民が輝けば輝くほど、広報紙は良いものになります。新聞やテレビで取り上げられなくても、頑張っている人、輝いている人は市内にたくさんいます。そんな人たちを紹介して、市民と市民をつなぐことが広報紙の役割だと考えています。紙だからこそ伝わるぬくもりや見やすさを武器に、市民の皆さんが必要とする情報をお伝えしていきますように、今後も「広報やながわ」は進化を続けます。